

# ライフサイエンス・環境分野の国際戦略拠点の形成

## 〈実中研 再生医療・新薬開発センター〉

(平成23年7月12日)

川崎市は、羽田空港の再拡張・国際化の機会を据え、国際的な課題の解決に貢献しながら、日本経済の持続的な発展を牽引する戦略的な拠点の形成をめざし、さまざまな取り組みを推進してきました。

その中で、多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町3丁目地区については、平成21年1月に策定した「殿町3丁目地区先行土地利用エリア土地利用基本計画」に基づき、環境技術・ライフサイエンス分野の産業集積や、先導的な研究機関等が集積した研究開発拠点の形成を図ることとしています。

この拠点形成を先導する先端的な研究開発を行う中核施設の整備区域を「中核施設ゾーン」とし、第1段階の中核施設として(公財)実験動物中央研究所の「実中研 再生医療・新薬開発センター」がオープンしました。

### 〈議会での審議経過と市の取り組み〉



【平成19年第3回定例会（7月）】

#### 質問

都市計画の変更や羽田連絡道路を視野に入れると、独立行政法人都市再生機構が所有する殿町3丁目地区の大規模工場跡地は非常に大きな可能性を秘めています。臨海部全体の活性化のため、市がこの土地を取得していくことは考えられないのですか。

#### 答弁

土地活用については、市が果たすべき役割などを見極めながら、民間事業者の誘導に向けた都市計画の変更や、国・県の補助制度の活用、さらには土地の取得や賃貸など、さまざまな手法について比較考慮して取り組んでいきたいと考えます。

【平成20年第5回定例会（12月）】

#### 質問

連絡道路整備の問題と羽田国際化に直面する大規模工場跡地再開発との関連性をいったん整理した上で、大規模工場跡地再開発を優先する2段階整備計画を再度策定し、臨空産業の誘致による地域経済の活性化や雇用の確保並びに税収培養策に向けた施策を優先すべき決断の時期と思えますが。

#### 答弁

殿町3丁目地区整備方針に基づき、連絡道路に支障がないと想定されるエリアから段階的に土地利用を図り、環境、ライフサイエンス分野の高度な研究開発機能、臨空産業機能などの誘致を進め、臨海部の再生・活性化を推進する拠点形成を図っていきたいと考えます。

取り組みとしては・・・

「実中研 再生医療・新薬開発センター」を整備する計画について、(独)都市再生機構から土地を川崎市が取得し、(公財)実験動物中央研究所に貸し付けました。  
(平成22年第2回臨時会において、用地の取得議案を原案のとおり可決しました。)



【平成22年第1回定例会（3月）】

**質問**

宮前区野川にある現在の(公財)実験動物中央研究所の研究施設と比べ、施設及び研究事業の内容などにおいてどのような拡充が図られますか。

**答弁**

慶應義塾大学医学部の先端医療開発特区プロジェクトと連携し、脊髄損傷などの中枢神経系の再生医療の実現に向けた研究開発を行います。また、大学、研究機関、製薬企業などとの新薬開発、さらには京都大学とのiPS細胞(※1)を活用した医療の研究開発などを予定しており、これらの取り組みを進める上で必要となる共同実験室及び共同研究室が整備される予定です。

**質問**

鳥インフルエンザなどの感染の可能性などはないですか。

**答弁**

研究や実験を行う過程で生じる物質の取り扱いや廃棄物の処理などについては、関係法令に基づき適切に行えるよう指導していきたい。

【平成22年第1回定例会（3月）】

質問

地元に対する取り組みとして住民説明会の実施状況と主な意見要望は。  
また、それらに対する本市の対応は。

答弁

平成22年2月に実施計画が整い、3月には本市と(公財)実験動物中央研究所が地元の皆様方に説明会を行い、この事業に理解をいただきました。また、バス等のアクセスの改善、工事中の騒音振動の配慮などについての意見・要望をいただいていますので、こうした意見を踏まえて、この地区の整備に取り組んでいきたいと考えます。

【平成23年第1回定例会（3月）】

質問

交通の便が不便ですが、臨海部交通アクセス円滑化の取り組みと殿町3丁目地区等への交通アクセス改善についてどのように考えていますか。

答弁

殿町3丁目地区を初めとする臨海部の交通アクセスについては、京浜急行大師線の産業道路駅を発着する新たなバスルートを確認するため、現在、京浜急行電鉄株式会社と検討を進めています。

取り組みとしては・・・

京急電鉄と川崎市はバスバースを整備し、川崎鶴見臨港バス株式会社は平成23年10月1日産業道路駅から新たなバス路線を運行しました。

- ①殿町小島線（産業道路駅前～殿町（殿町3丁目地区））
- ②浮島中央線（産業道路駅前～JX日鉱日石エネルギー浮島前）

【運行本数（1日）】 ※産業道路駅前発

- |       |            |
|-------|------------|
| 平日    | ①殿町小島線：18本 |
|       | ②浮島中央線：48本 |
| 土曜・休日 | ①殿町小島線：12本 |
|       | ②浮島中央線：24本 |

【運賃】

大人200円 小児100円（両路線とも川崎市内均一運賃を適用）



## 実中研 再生医療・新薬開発センター

再生医療（※2）の発展や医療品開発を促進する実験動物を研究することによって人々の健康に貢献する、（公財）実験動物中央研究所の新しい研究所です。



動物実験用のマウスを無菌状態で飼育できる「ビニールアイソレーター」（※3）やマーモセット(実験動物のサル)に自動で給水できる設備がそろい、他企業の研究者との共同研究室や、理科の課外授業に活用できる実習室等も備えました。

### 【施設概要】

敷地面積：約6,000㎡

建築面積：2,727㎡

階数：地上5階

### 【主要機能】

動物飼育室

実験室：MRI 実験室、培養実験室など

教育・見学機能：実習実験室、研修室

その他：研究室、事務室、会議室など

引き続き、中核施設ゾーンの第2段階として、高度な先端技術を有する研究開発施設や企業・大学等の誘致、産学公民の連携による研究の推進などに向け、「（仮称）産学公民連携研究センター」の整備を進めています。

### <用語の解説>

#### ※1 iPS細胞

日本語では「人工多能性幹細胞」といわれる。人の皮膚細胞などに複数の遺伝子を組み込んで、各種の組織のもとになる細胞を作ることのできる万能細胞である。体を構成する皮膚などの細胞が持っている機能を「リセット」することで、あらゆる細胞に変化する万能性をもたせたもの。

万能細胞は病気や怪我で失われた臓器や組織を修復する再生医療の切り札といわれている。

#### ※2 再生医療

事故や病気によって失われた身体の細胞、組織、器官の再生や機能の回復を目的とした医療。

#### ※3 ビニールアイソレーター

飼育環境の異常発生を迅速かつ確実に検知し、飼育中の動物に重大なダメージを与えることなく、飼育動物の微生物学的汚染及び死亡事故の発生を防止でき、動物飼育の安全性の大幅な向上が図れる実験動物飼育装置。